テーマ趣意文

※「テーマ趣意文（例）」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
　部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている**「部門番号一覧」**からご確認ください。

日本大学　　高橋ゼミ　　1 パート

部門番号 25　　部門名 労務管理

テーマ　　企業に求められる人材像

サブテーマ　　雇用のミスマッチの解消に向けて

趣意文

　大学生の最大の関心事の一つが卒業後の進路である。大学生になり自分の専門科目の学習を進めていく間であっても、今取り組んでいる学習内容が自分のキャリアにどのように影響するのかという不安がふとよぎることがある。自分の将来に向けてどのような努力をすればよいのか。大学生活の過ごし方に模範解答はあるのだろうか。多くの学生はこの悩みにぶつかるのでは無いだろうか。
　さらに就職活動を無事乗り越えて、卒業後に新入社員として入社した場合であっても、別の問題が横たわっている。大卒就業者の 30%が入社後の三年以内に離職・転職をしているという実態がある。その理由の一般的な背景に職業意識が定まっていない段階で就職を決めてしまったことがある。こうした状況は雇用のミスマッチといわれ、企業と新卒者の双方においてミスマッチが解消されることが期待される。
　その対応策としてインターンシップ制度や、同制度を利用しての就職というルートが徐々に作られている。しかしここにも課題がある。就職活動の早期化が進むことによって、大学生活の学びと就職の摺り合わせの時間が前倒しになってしまうことである。会社や職業に対する意識はどのタイミングで育まれるのだろうか。
　本研究ではすでに大学生活を始めている学生が当事者として何が可能なのか考察する。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文（例)」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
　部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている**「部門番号一覧」**からご確認ください。

専修大学　　勝部伸夫ゼミ　　勝部１パート

部門番号　　28　　部門名　国際経営論

テーマ　　日本企業の海外進出について

サブテーマ　日本企業の海外進出のメリット・デメリットと今後の在り方

趣意文

現在、多くの国で企業の海外進出が展開されている。もちろん日本国内の企業も海外進出に力を入れている。順調に拡大し続けていると見受けられた日本の生産力と市場規模。しかしバブル崩壊後から日本の GDP 成長率は大きな上昇することのないまま現在に至り、さらに近年の日本は円安や資源の不足・生産年齢人口の減少といった様々な問題に見舞われている。このような状況下にある日本企業が海外進出を展開することでどのようなメリット・デメリットが考えられるか。またグローバル化を行い大成長を遂げた海外の大企業とは経営方針や海外展開の方法にどのような違いがあるのか。これらについて、海外展開している国内の電化製品メーカーと海外の大手電化製品メーカーの比較等をベースに、日本企業の海外展開による今後の課題と解決策について論じていきたい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文（例)」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
　部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている**「部門番号一覧」**からご確認ください。

神奈川大学　玉井義浩ゼミ 日本経済パート

部門番号　1　　部門名　日本経済論

テーマ　日本経済の資源配分の偏りを是正する

サブテーマ　少子化・人手不足・地域格差の是正

趣意文

　現在、日本経済は世代間と地域間・産業間という三つの相での資源配分の偏りを抱えている。世代間の資源配分の偏りとして、高齢世代に偏った社会保障給付がある。厚生労働省が発表した最新の人口動態統計によれば、2022 年の日本の合計特殊出生率は過去最低水準の 1.26 で、国立社会保障・人口問題研究所(2023)「日本の将来推計人口」によれば、2023 年現在 2.03 人の生産年齢人口で 1 人の高齢者を支えているところ、2043 年には 1.51 人で 1 人の高齢者を支えなければならなくなる。つまり現在の年金・社会保障制度の枠組みを維持したまま少子化問題を放置すると、若年世代ほど生涯可処分所得が減り、自分の結婚・子育ての原資が乏しくなり、ますます少子高齢化が深刻になるという悪循環が生じる。
　この悪循環を断ち切るには、高齢世代に偏った社会保障支出を改め、子育て世代への思い切った支援のほか、高齢者の労働力参加を拡充するが必要がある。
　前者は財源を必要とし、地域間の格差の問題(若者の地方から都市への流出するなど)の解決のための財源との関係を調整しながら解決を図らなければならない問題である。後者は産業間の資源配分の歪み、すなわち人手不足に悩む産業と人手が余剰である産業が混在しているという問題の解決にとっても重要である。
　我々の研究では、少子高齢化問題と地域間格差と産業間の労働力配分の偏りを解決するための資源配分の是正を探る。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文（例)」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
　部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている**「部門番号一覧」**からご確認ください。

専修大学　　勝部伸夫ゼミ　　勝部 A パート

部門番号　22　　部門名　　経営学総論

テーマ　　戦後日本の経済成長における経営者の役割と現代ビジネスへの示唆
サブテーマ　持続可能な経営と社会的責任：戦後日本の経済成長の経営者のアプローチからの現代ビジネスへの示唆

趣意文

本研究は、「戦後日本の経済成長における経営者の役割と現代ビジネスへの示唆」をテーマとしています。戦後日本の経済発展における経営者のリーダーシップ、戦略、技術革新、国際市場への進出、人材育成、社会的責任などの役割を詳細に探究します。本研究は戦後日本の経済成長の背後にある経営者の役割を詳細に解析し、その教訓が現代のビジネス環境にどのように適用できるかを検討することで、現代ビジネスの持続的な成長と競争力強化に向けた重要な示唆を提供したい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文（例）」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
　部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている**「部門番号一覧」**からご確認ください。

関東学院　大学　　野中　ゼミ　　祝日万歳　パート

部門番号　　14　　部門名　　環境経済論

テーマ　　大規模イベント後のゴミ問題について

サブテーマ　　逗子市における花火大会後のゴミ問題について

趣意文

　私達のグループでは、逗子市の花火大会後のゴミ問題について取り組んでいる。花火大会後の具体的なゴミ問題とは、砂浜・開催地周辺道路へのポイ捨てゴミや、海へ流れ出てしまうゴミが問題となっている。
　また、逗子市においては花火大会が年間で１回のみの開催の為、多くのゴミ箱を設置するとなるとそのゴミ箱の出番が花火大会同様に年間１回となり現実的な解決策ではないと考えている、そのため現実的な解決策を提案できるよう取り組んでいる。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文（例）」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
　部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている**「部門番号一覧」**からご確認ください。

中央大学　　佐藤拓也ゼミ　　佐藤ゼミ教育パート

部門番号　13　　部門名　社会保障論

テーマ　教育

サブテーマ　小一の壁

趣意文

　私たちは、教育問題のうち「小一の壁」について研究している。この問題は、数十年にわたって社会問題となっていたが、近年さらに注目度が向上し、メディアにも取り上げられるようになっている。「小一の壁」とは、子どもが小学校に上がった際に、子どもが保育園に通っていた時よりも、親にとって仕事と育児の両立をすることが困難になる社会問題のことである。
　具体的な問題点としては、子どもの宿題や持ち物の面倒を見ることや、PTA での活動や保護者会など、様々な仕事が増えることで、より一層親への負担がかかることが挙げられる。私たちは今回、こうした親の負担を減らすために、待機児童問題を抱える学童や、様々な教育施策を実施する小学校、また施策を考えている市役所等に訪問を行い、調査を進めた。地域の選定場所としては、中央大学からアクセスがよく、待機児童の数が多い立川市を選定した。私たちは、現在調査を行い、「小一の壁」を解消できるモデルを研究している。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文（例）」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
　部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている**「部門番号一覧」**からご確認ください。

大東文化大学　　首藤ゼミ　　B パート

部門番号　24　　部門名　マーケティング

テーマ　デジタルディバイドについて

サブテーマ　デジタルディバイドの危険性と解決策

趣意文

現代の我々を取り巻く世界においての諸問題の一つとして、デジタルディバイドが挙げられます。
デジタルディバイドとは、インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のことをいいます。
デジタルディバイドは、日本国内は去ることながら、アフリカなどの発展途上国において非常に問題となっております。
このデジタルディバイドが生じる要因としては、「収入・経済的格差」「教育・学歴格差」「中心都市と地方の差」「身体的・精神的障がいの有無」「高齢化」「IT インフラ・IT 人材の不足」の 6 つの原因が考えられます。
私たちはこれら 6 つの原因によってもたらされる具体的な問題点についてと、それらについてを更に深掘りし、それらの問題を解決する為の対策案について提案しようと思います。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文（例）」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
　部門番号一覧は、インナー大会 HP に掲載されている**「部門番号一覧」**からご確認ください。

中央大学　　佐藤ゼミ　　佐藤ゼミ消費班パート

部門番号 24　　部門名　マーケティング論

テーマ　100 円ショップの経営について

サブテーマ 100 円均一を維持するべきか

趣意文

最近の円安や原材料高騰による物の値上げが進む中、１００円という安価で価格維持を行う１００円ショップの経営について私たちのグループでは研究を行っている。
　具体的には均一料金を保つ手法や工夫、時代変化に伴う顧客需要や外部環境の変化への対応などである。また、近年の高額商品の取り扱いによる利益率の変化や既存企業との棲み分けについても考察を行う。
　これらを調査した上で、私たちは１００円という安価維持が日本経済をよい影響を与えるか、という点に注目する。需要やコストが大きく変動する現代で安価かつ均一料金という価格設定は生産者・消費者ともに“１００円商品が魅力的である”という潜在的思考を持つと考える。景気が良いとは決して言えない中インフレが進む日本において、安価かつ不変であることは確かに魅力的で需要の拡大も予想されるが、日本経済の今後というマクロ視点で見た際に魅力的であるということができるだろうか。企業は時代を追ってコストやマーケティング対策を行っているが、売上高の伸びに対して利益率は横ばいであるのが現状である。
これらを踏まえた上で１００円均一の経済的反響の考察を行い、１００円ショップが１００円均一商品を維持するべきなのか、また１００円均一を見直す場合には企業と顧客双方の価格における意識変革の方法について現状の１００円ショップの経営をもとに結論付けることを目標としている。